

# 令和3年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立輪島高等学校 定時制

重点目標		具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果、課題、改善策等）
1	学ぶことのよろこびの実感	① ICTを利活用した授業の展開	ICTの利活用により、意欲的に学習に取り組めたと感じた生徒が A：80%以上 B：60%以上 C：50%以上 D：50%未満	A (83.5%)	成果：全体的な傾向としてはICT機器が概ね効果的に活用されてきていることが窺われる。 課題：個々の授業においては、生徒の学習への適応度合いによってICTの有効性があまり発揮されていない場合もある。 改善策：それぞれの授業の特性に応じて更に効果的なICTの活用法を追求する。
	〔主担当〕 学力向上G	② 生徒の興味関心を高める授業の展開	授業に主体的に取り組んだ生徒が A：70%以上 B：60%以上 C：50%以上 D：50%未満		B (64.7%)
学校関係者評価委員会の評価		①ICTの活用については成果がみられることからすべての授業においてICT機器の一層の活用が求められる。 ②学力差や意欲差があり大変な面はあるが、学習に対して粘り強く取り組み、分かる喜びを感じることができる授業を展開してほしい。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策		①②Chromebookの基本的な操作については教員・生徒も慣れてきているので、来年度はさらに校内外での研修を重ねながら授業でのより有効な活用方法を探っていく。			

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果、課題、改善策等）
2 社会人基礎力の向上  〔主担当〕 キャリア教育 G	① 社会人として求められる挨拶・言葉遣い指導	人前で挨拶や発表する場面を経験できた生徒が A：80%以上 B：60%以上 C：40%以上 D：40%未満	<b>C</b> (40.0%)	成果：挨拶はある程度できるが、人前で発表する場面はなかなか設定することができなかった。 課題：特に女子を中心に、人見知りや人前で発表することに抵抗を感じる生徒が多い。 改善策：授業を含め、あらゆる機会に時と場に応じた言動ができるように、長期的な展望を持って、今後も粘り強く指導を継続していく。
	② 時間の自己管理意識を高める指導	全授業の出席率 80%以上の生徒が A：70%以上 B：50%以上 C：30%以上 D：30%未満	<b>B</b> (66.7%)	成果：学級担任が、本人や家庭との連絡を密にして出席を促しているため、長期の欠席が抑えられた。 課題：これまでの出席状況を鑑み、今後、進路指導で明確な目標を持たせ、欠席が連続しないようにする。 改善策：欠時の多い生徒には、個人面談や保護者への連絡を密に行い、生活面の改善や将来を展望する意識を高めていく。
	③ いじめを許さない姿勢の確立	自己有用感が高まったと感じた生徒が半数を超えた行事が A：年10回以上 B：年8回以上 C：年6回以上 D：年5回以下	<b>B</b> (9回)	成果：コロナ禍の中でも感染症対策を施してある程度学校行事を行うことができた。 課題：感染症対策のため、周囲の人たちと協力しながら、自分自身の仕事を成就して、自己有用感を高める機会は十分に得ることができなかった。 改善策：学校行事にもICTを活用し、他者を思いやる気持ちを涵養する場面を工夫して設定する。
学校関係者評価委員会の評価	①人前で発表するのはそれぞれの性格もあり指導が難しいと思うが、まず自分に自信を持たせる声掛けをお願いしたい。 ②生徒の出席の状況が年々よくなっていると感じる。 ③学校行事を有効に活用して、他者を思いやる心を継続して育ててほしい。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	①自己肯定感が低い生徒が多いので、学校生活の些細な言動の変化にも注目し、褒めることで自信をつけさせていく。 ②生徒の心に寄り添った細やかな指導を引き続き行っていく。 ③学校行事は生徒の変化を感じられる絶好の機会なので、感染症対策を徹底しながら実施していく。			

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果、課題、改善策等）
3 地域愛の育成  [主担当] 地域理解G	① ふるさと学習への積極的な参加	ふるさとに関する体験学習に積極的に取り組むことができた生徒が A：90%以上 B：70%以上 C：50%以上 D：50%未満	<b>A</b> (91.6%)	成果：今年度は昨年度から継続して取り組んでいる行事に加え、新たな試みとして外部講師を招いた企画を取り入れたところ、生徒の参加率が増えたように思われる。 課題：今年度も体調不良や仕事の都合でやむを得ず参加できない生徒がいたほか、コロナウイルス感染の影響をかなり受けており、本格実施出来なかった。 改善策：今年度よりも早く生徒に案内し、参加できるよう日程を調整してもらう。
	② 協働的に活動する場面の設定	生徒が協働的に行った探究活動が A：年10回以上 B：年8回 C：年6回 D：年5回以下	<b>B</b> (8回)	成果：年次単位で取りくんだ結果、生徒自身が自ら考えて進んで取り組むことができた。 課題：今年度もコロナウイルス感染拡大のため中止になった行事があるほか、悪天候のため中止になった行事が3回もあり、思うような成果を出すことができなかった。生徒自身がアイデアを出し折角企画しても実施出来ない状況があった。 改善策：中止になった行事に関してはできるだけ予備日や代替りの行事などを設定し、中止しないよう企画する。
学校関係者評価委員会の評価	①輪島で育っていく子どもたちなので、地域の歴史の学習を取り入れるなど、郷土愛豊かな生徒に育ててほしい。 ②コロナウイルス感染拡大の中であっても、新しい企画を取り入れ、協働の喜びを感じられる体験を生徒にさせてほしい。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	①ふるさと学習については地域に詳しい外部講師を招くなど、テーマが幅広い内容となるよう工夫する。 ②天候や感染症流行などの影響を受けない代替案を並行して企画し、協働的な活動を数多く体験できるように準備する。			